

岩谷十郎教授略歴

一九六一年

東京都生まれ

学歴

一九七九年

慶應義塾高等学校卒業

一九七九年

慶應義塾大学法学部法律学科入学

一九八四年

慶應義塾大学法学部法律学科卒業

一九八四年

慶應義塾大学大学院法学研究科公法学専攻修士課程入学

一九八六年

慶應義塾大学大学院法学研究科公法学専攻修士課程修了（法学修士）

一九八六年

慶應義塾大学大学院法学研究科公法学専攻後期博士課程入学

一九八九年

慶應義塾大学大学院法学研究科公法学専攻後期博士課程単位取得退学

職歴

一九八九年

慶應義塾大学法学部専任講師

一九九〇年

慶應義塾福澤研究センター所員

一九九二年

慶應義塾大学法学部助教

一九九七年 フランス国立東洋言語文明研究院 (INALCO) 訪問研究員

二〇〇〇年 慶應義塾福澤研究センター 副所長

二〇〇〇一年 慶應義塾大学法学部教授

二〇〇〇一年 国立国会図書館調査及び立法考査局客員研究員

二〇〇〇八年 慶應義塾福澤論吉記念文明塾コアプログラム・ベシックリーダーディング・コーディネーター

二〇一〇年 慶應義塾体育会剣道部部長

二〇一〇二年 慶應義塾福澤研究センター 所長

二〇一五年 慶應義塾大学法学部長・大学院法学研究科委員長

二〇一九年 大連外国語大学客員教授

二〇二一年 慶應義塾常任理事 (現在に至る。なお、二〇二五年五月より、慶應義塾大学副学長を兼ねる。)

※非常勤講師として出講していた大学 (着任順)

東京商船大学 (当時。現東京海洋大学)、明治学院大学、法政大学、明治大学、東京都立大学、早稲田大学、一橋大学 (法科大学院)

学会・社会活動

二〇一四年 法文化学会理事長

二〇一四年 日本学術会議連携会員

二〇一五年 慶應法学会会長

二〇一七年 文部科学省中央教育審議会専門委員 (大学分科会)

二〇一八年 法制史学会代表理事

二〇二二年 文部科学省大学設置・学校法人審議会（学校法人分科会）委員
二〇二三年 一般社団法人日本私立大学連盟経営委員会委員

岩谷十郎教授主要業績

一、単行本

- 『裁判と法の歴史的展開』(共著) (敬文堂、一九九二年)
- 『日本立法資料全集第三〇卷(旧刑法2)―1』(共著) (信山社、一九九五年)
- 『日本法曹界人物事典(第一卷〜第一〇卷・別巻)』(共編著) (ゆまに書房、一九九六年)
- 『法と正義のイコノロジ』(共編著) (慶應義塾大学出版会、一九九七年)
- 『慶應義塾大学図書館蔵 花井卓蔵文書目録』(共編著) (慶應義塾大学三田メディアセンター、一九九八年)
- 『明治大正 町の法曹』(共著) (法政大学出版局、二〇〇一年)
- 『新体系日本史2 法社会史』(共著) (山川出版社、二〇〇一年)
- 『福澤論吉の法思想』(共編著) (慶應義塾大学出版会、二〇〇二年)
- 『新・日本近代法論』(共著) (法律文化社、二〇〇二年)
- 『日本近代法案内』(共著) (法律文化社、二〇〇三年)
- 『福澤論吉著作集第八卷 時事小言・通俗外交論』(共編著) (慶應義塾大学出版会、二〇〇三年)
- 『Notes diverses sur le Code civil et sur le Code commercial (ボワソナード民法典資料集成)』(共編著) (雄松堂、二〇〇六年)

- 『日本近代法学の揺籃と明治法律学校』（共著）
（日本経済評論社、二〇〇七年）
- 『日本弁護士協会録事（明治編）』（共編著）
（ゆまに書房、二〇〇八年）
- 『明治日本の法解釈と法律家』（慶應義塾大学法学研究会叢書83）（義塾賞受賞）
（慶應義塾大学出版会、二〇一二年）
- 『復刻 学問のすゝめ 全』（公益財団法人 福澤旧邸保存会、二〇一二年）
- 『近代日本と福澤諭吉』（共編著）
（慶應義塾大学出版会、二〇一三年）
- 『法典とは何か』（共編著）
（慶應義塾大学出版会、二〇一四年）
- 『再帰する法文化』（編著）
（国際書院、二〇一六年）
- 『よくわかる日本法制史』（共編著）
（ミネルヴァ書房、二〇二五年）
- 一、学術論文
- 「二つの仏文刑法草案とポアソナード」
法学研究六四卷一号（一九九一年）
- 「内閣文庫所蔵旧刑法手稿仏文草案——ポアソナードの編纂過程関与の実態」
法学研究六四卷九号（一九九一年）
- 「内閣文庫所蔵旧刑法手稿仏文草案——Projet de Code pénal（1）」
法学研究六四卷一〇号（一九九一年）
- 「内閣文庫所蔵旧刑法手稿仏文草案——Projet de Code pénal（2）・完」
法学研究六四卷一一号（一九九一年）
- 「訓令を仰ぐ大審院——明治一二年代の司法権」
法学研究六六卷八号（一九九三年）
- 「司法資料保存利用問題」（共著）
法制史研究四四号（一九九四年）
- 「司法省により「冗長」と批判された判決文をめぐる一考察」
法学研究六八卷四号（一九九五年）
- 「The Supreme Court as a Repository of Legal Symbols—Images of Law and Justice in Modern Japan」
Keio Law Review No. 8（一九九五年）

- 「ジョン・ヘンリー・ウイグモアの残した二つの契約書」 近代日本研究一三卷 (一九九六年)
- 「ウイグモアの法律学校——明治中期一アメリカ人法律家の試み」 法学研究六九卷一号 (一九九六年)
- 「旧刑法の編纂における「旧なるもの」と「新なるもの」」 法制史研究四七号 (一九九六年)
- 「La publication de la Revue française du Japon (1892-1897) : l'infuctueuse tentative d'un juriste français, conseiller auprès du gouvernement japonais」 Japon pluriel 3 (一九九八年)
- 「ウイグモア宛ボアソナード書簡一四通の解題的研究——民法典論争と二人の外国人法律家」 法学研究七三卷一号 (一九九九年)
- 「法文化の翻訳者——ことばと法と福澤諭吉」 福澤諭吉年鑑三〇号 (二〇〇二年)
- 「日本法の近代化と比較法(シンポジウム 新世紀における比較法学の課題)」 比較法研究六五号 (二〇〇三年)
- 「法科大学院の創始と福澤諭吉」 福澤諭吉年鑑三三二号 (二〇〇五年)
- 「ジョン・ヘンリー・ウイグモアにおける日本法研究の端緒——民事慣例類集の英訳者・牛場徹郎関係資料紹介」 近代日本研究二四卷 (二〇〇七年)
- 「明治太政官期法令の世界」
- 日本法令索引〔明治前期編〕データベース利用のために(国立国会図書館調査及び立法考査局) (二〇〇七年)
- 「沈黙の法文化——近代日本における法のカタチ」 法学研究八二卷一号 (二〇〇九年)
- 「始まりの法律学——実務・法典・解釈」 法律時報八四卷三号 (二〇一二年)
- 「民法典論争・論争史——その構造と性格」 法律時報八四卷三号 (二〇一二年)
- 松山大学法学部松大G.P推進委員会編『民法典論争資料集』〔復刻増補版〕(日本評論社) (二〇一三年)
- 「拜啓 ウイグモール先生!」——ウイグモア宛神戸寅次郎英文書簡を読む」 福澤手帖一六五号 (二〇一五年)
- 「慶應義塾の法律学と法律家——大学部法律科創設の頃」 慶應法学三二号 (二〇一五年)
- 「情と理で読み解く長沼事件——福澤諭吉の法交渉」 交詢雑誌五九九号 (二〇一五年)

- 〔再録〕情と理で読み解く長沼事件——福澤諭吉の法交渉〕 福澤諭吉年鑑四二号（二〇一五年）
- 〔Gustave Émile Boissonade et son pays d'adoption〕 Historiens et Géographes No. 444（二〇一八年）
- 〔Les narrateurs du droit dans le Japon de Meiji: de la technique du droit à sa science〕 Aux sources nouvelles du droit, mare et martin（二〇一八年）
- 〔「脱亜」の法論と文明論——穂積陳重と福澤諭吉〕 法と文化の制度史三号（二〇二三年）
- 〔ウイグモア宛ボアソナード書簡の解題的研究（続）〕 法と文化の制度史四号（二〇二三年）
- 二、論考・エッセイ
- 〔「随想」海とボアソナードと巡礼者〕 三色旗五〇一号（一九八九年）
- 〔明治期一塾生と近代法との接点〕 慶應法学会ニュース二〇号（一九九〇年）
- 〔明治期一判事の履歴書を追う〕 塾一六〇号（一九九〇年）
- 〔「日本法の「脱日本化」についての雑感」〕 三田評論九一一号（一九九〇年）
- 〔我が国の近代法律学の確立と慶應義塾（慶應義塾大学図書館小展示目録）〕 三田評論九一一号（一九九〇年）
- 〔ウイグモア文書 日本関連資料への接近——ノースウエスタン大学における調査報告を中心に〕 三田評論九三〇号（一九九一年）
- 〔異法文化接触のウチとソト——明治期翻訳法律語成立事情断片〕 三色旗五三四号（一九九二年）
- 〔明治初期民衆の訴訟生活——史料の中にもみる日本法の近代〕 三色旗五五九号（一九九四年）
- 〔クロビュコフスキー夫人の訪問〕 三田評論一〇一五号（一九九九年）
- 〔ジョン・ヘンリー・ウイグモア文書〕 東京大学史料室ニュース二五号（二〇〇〇年）
- 〔福澤諭吉と「紛争」〕 三田評論一〇三一号（二〇〇〇年）

- 「福澤と義民信仰」 三色旗六七号 (二〇〇三年)
- 「近代日本とナポレオン法典」 三色旗六八四号 (二〇〇五年)
- 「シモンズ・ウイグモア・福澤——旧時代の法制度を見る視点(書簡に見る福澤人物誌(13))」 三田評論一〇七九号 (二〇〇五年)
- 「明治期法典編纂事情——異文化の法律家の果たした役割」 法学雑誌 *forum* 八号 (二〇〇六年)
- 「訴訟人・福澤諭吉——講義ノートのメモから」 三色旗七〇九号 (二〇〇七年)
- 「デジタルで紡ぐ福澤諭吉の法のことば——権利・権理・通義」 *MediaNet* 一五号 (二〇〇八年)
- 「福澤諭吉の目指した法教育——草創期大学部法律科の理念と現実」 三田教育会報三九号 (二〇〇八年)
- 「極東における二人のフランス人法律顧問(日本近代法の父 ポワソナード没後一〇〇年)」 ふらんす八五卷九号 (二〇一〇年)
- 「福澤諭吉と法(連載・第一回〜第六回・完)」 刑政二二二卷六号〜二二三卷二号 (二〇一〇〜二二二年)
- 「入門・『学問のすゝめ』——その成立と内容と」 三田評論一一五五号 (二〇一二年)
- 「自我作古の人と思想——センター長就任の言葉にかえて」 福澤研究センター通信一八号 (二〇一三年)
- 「私塾・慶應義塾」 私塾に学ぶ (二〇一四年)
- 「法務図書館所蔵 甲府地方検察庁都留支部旧蔵文書目録・解題」 『法務図書館所蔵 甲府地方検察庁都留支部旧蔵文書目録』 (二〇一四年)
- 「法務図書館所蔵 京都府裁判所検事局旧蔵文書目録・刊行に寄せて」 『法務図書館所蔵 京都府裁判所検事局旧蔵文書目録』 (二〇一四年)
- 「法務図書館所蔵 新潟地方検察庁旧蔵文書目録・刊行に寄せて」 『法務図書館所蔵 京都府裁判所検事局旧蔵文書目録』 (二〇一四年)
- 「私立法律学校と外国人法律家」 『法務図書館所蔵 京都府裁判所検事局旧蔵文書目録』 (二〇一四年)

- 「石川一三夫著『日本の自治の探求——名望家自治論の系譜』
 法制史研究四六号(一九九六年)
- 「丹念な考証と手堅い資料操作——編纂のプロセスを徹底的に洗い出す
 大久保泰甫・高橋良彰著『ボワソナード民
 法典の編纂』
 週刊読書人二二九〇号(一九九九年)
- 「明治政府の困難な条約改正交渉——『法律問題』に視点を定めて入念に描き出す
 藤原明久著『日本条約改正史の
 研究——井上・大隈の改正交渉と欧米列強』
 図書新聞二〇〇四年九月二五日付(二〇〇四年)
- 「橋本誠一著『在野「法曹」と地域社会』
 法制史研究五六号(二〇〇六年)
- 「ジャン・ルイ・アルペラン「フランス人にとつての記憶の場としての民法典」(共訳)
 『コード・シヴィルの二〇〇年』(創文社)(二〇〇七年)
- 「ジャン・ルイ・アルペラン「法をめぐる歴史と理論」(共訳)
 法学研究八〇巻九号(二〇〇七年)
- 「洪淳鎬「旧韓末における外国人法律・外務顧問の外交史的研究」(共訳)
 法学研究八二巻一号(二〇〇九年)
- 「島善高著『律令制から立憲制へ』
 法史学研究会会報一四号(二〇〇九年)
- 「橋本誠一著『明治初年の裁判——垂直手続構造から水平的手続構造へ』
 法制史研究六八号(二〇一九年)
- 「フランス語で読む『学問のすゝめ』
 三田評論一二三三三号(二〇一九年)
- 「山口亮介「天保・弘化期のオランダ法典翻訳における Burger 関連語の訳出——『和蘭律書』「断罪篇」を中心に」、
 高田久実「贖罪・収贖から罰金刑へ——明治初期の刑事罰と法典化」、大泉陽輔「近代日本における特許権者の素
 描」
 法制史研究七〇号(二〇二一年)
- 「石部雅亮責任編集『法の思想と歴史(創刊号)』
 法制史研究七二号(二〇二三年)
- 「山内慶太・西川俊作編『福澤諭吉 教育論——独立して孤立せず』
 三田評論一二八九号(二〇二四年)
- 「荒川英史『明治中期の民法教育・民法学習——法学徒たちの社会史へ』
 法と文化の制度史六号(二〇二五年)

五、その他

- 「九月横浜の日曜日」 三色旗四九八号（一九八九年）
- 「法学」講義必勝法?」 三色旗五一九号（一九九一年）
- 「リーガル・マインドって何ですか」 慶應通信五二二号（一九九一年）
- 「福沢の法不用論」 慶應義塾大学報二二二号（一九九一年）
- 「忘れられた契約条項」 慶應義塾大学報二二七号（一九九二年）
- 「再び「法学」講義必勝法」 三色旗五四三号（一九九三年）
- 「パリ、日常の中の環境問題」 『地球人ムック フランス語をモノにするためのカタログ』（二〇〇〇年）
- 「インターネットによる法令情報の発信——太政官布告から現行法まで（座談会）」 国立国会図書館月報五六八号（二〇〇八年）
- 「法学教育素材としての福澤先生」 目路はるか教室の記録（二〇〇三〜二〇〇七年）（二〇〇八年）
- 「剣道部長に就任して」 つるぎ三三三号（二〇一〇年）
- 「文明の作法——智徳から読み解く」 三色旗七七八号（二〇一三年）
- 「福沢研究センターの「これまで」と「これから」（座談会）」 近代日本研究三〇巻（二〇一四年）
- 『法学政治学論究』一〇〇号記念座談会——回顧から創造へ」 法学政治学論究一〇五号（二〇一五年）
- 「慶應義塾発足の理念、「自我作古」」 塾二二七号（二〇一五年）
- 「ソクラテスのカフェ」 慶應塾生新聞五一四号（二〇一五年）
- 「体育会卒業選手送別会部長代表祝辞」 慶應義塾体育会体育会月報（平成二九年四・五月号）（二〇一六年）
- 「向井健先生の温顔」 法制史研究六六号（二〇一六年）
- 「始まりの時に——慶應義塾の一五〇年の節目に」 塾二九八号（二〇一八年）

「カルロス・ゴーン逃亡の真実を初めて「法制史」の観点から検証（インタビュー）」

週刊ダイヤモンド二〇二〇年二月一五号（二〇二〇年）

「自我作古」の新解釈」

塾報付録・塾内ニュース一四九号（二〇二一年）

「新塾長・常任理事就任」

慶應義塾幼稚舎同窓会報（二〇二一年）

「克己の時代」

つるぎ二四号（二〇二一年）

「不条理の入口」

法学セミナー一八〇六号（二〇二二年）

「学問」をあらためて考える——『学問のすゝめ』初編刊行から一五〇年（座談会）」

塾三一七号（二〇二二年）

「講演記録「学問のすゝめ」管見——通義と有様の織りなす世界」

慶應倶楽部会報一三五号（二〇二三年）

「早稲田大学剣道部創立一二五年を祝す」

稲剣誌一〇号（二〇二三年）

「慶應義塾に学び慶應義塾に生きる」

第二六回目路はるか教室の記録二〇二三（二〇二三年）

「慶應義塾の記念日」

塾三二一号（二〇二四年）

「師と父と——幼稚舎に還る道」

福澤手帖二〇二号（二〇二四年）

「六十三歳の「作文」」

仔馬七六卷三号（二〇二四年）

「個別において全体を思う」

塾報付録・塾内ニュース一五一号（二〇二五年）

「信仰告白のコトバ」

日本キリスト教団横浜本郷台伝道所会報一一号（二〇〇〇年）

「二つの「最後の晩餐」——「バベットの晩餐会」考」

日本キリスト教団横浜本郷台伝道所会報一五号（二〇〇二年）

「時・いのち・イエス」

日本キリスト教団横浜本郷台伝道所会報一六号（二〇〇二年）

「ジコセキニンという非難」

日本キリスト教団横浜本郷台伝道所会報二三号（二〇〇五年）

「教会の父」

日本キリスト教団横浜本郷台伝道所会報二四号（二〇〇五年）

「神の家・我が家」

日本キリスト教団横浜本郷台伝道所会報二七号（二〇〇七年）

「平先生のこと」

「寅さんの愛」

「唯一の神」

日本キリスト教団横浜本郷台伝道所会報三六号（二〇一二年）

日本キリスト教団横浜本郷台伝道所会報三七号（二〇一三年）

日本キリスト教団横浜本郷台伝道所会報四一号（二〇一五年）

・以上のもの他、『語り継ぐ三田法学の伝統——慶應義塾大学法学部法律学科史』、『慶應義塾大学法学部創設一二五年記念講演集』、『慶應義塾史事典』、『福澤論吉事典』、『歴史学事典』、『近現代日本人物史料情報辞典』、『明治時代史大辞典』等において執筆した各項目があるが、それらは割愛した。